

通信・ITネットワークの分野では、日々新しい技術が開発され、より効率的で、より安価なサービスが次々と生み出されています。知らないことは、イコール企業利益の損失です。そこで私たち大和電設工業は、情報通信やITソリューションの『知って得する最新情報』を、お世話になっている皆様に定期的にお伝えしていきます。隔月発刊のDDK通信、ぜひお楽しみください。

テレワーク・ペーパーレス化を成功に導くために

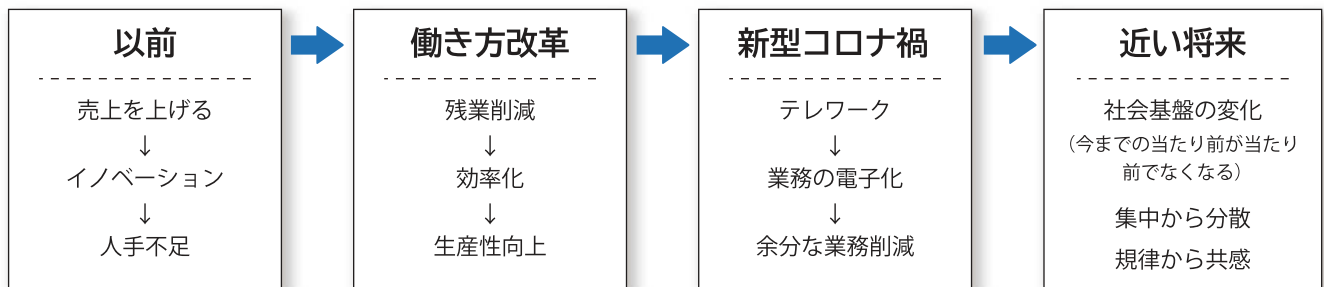
数年前の「働き方改革」で始まり、今回の新型コロナ対策で一気にIT化が進んだように思われます。これからはさらにDX(デジタルトランスフォーメーション)へと繋がることは確実ですが、その時社会はどのように変化するのが予測できません。しかし、私たちはその時代に備えた環境作りを進める必要に迫られています。

新型コロナ禍で今後もテレワークを行う企業が増えてくる

と思われませんが、テレワークとは在宅勤務の事だけではありません。テレワークを推し進めることで外出中での業務や、育児・介護などで出勤できない時に仕事ができる環境など、今まで気が付かなかった不自由な働き方を改善し業務効率を上げることができます。

今回は、テレワークや業務の電子化を成功させるために何が必要かを考えてみたいと思います。

テレワークやペーパーレス化の必然性



※DXとは、端的に説明すると「データを集め、そこから価値を見つけて利益を生み出す仕組み」と言えます。

AIへの活用が代表的ですが、AIを活用すると利益だけでなく生産性の向上にもつなげることができます。

テレワークの実施やペーパーレス化をより進めるにあたっての課題

便利になるからと言って電子化を進めようとしても、業務のルールや手順の変更をすることは容易ではありません。毎日の習慣を変えることに抵抗がある為です。昨年の非常事態宣言の時のように、どうにもならない時に恐々取り組んでみて「なんと

かなった」と言うのが実感ですが、これとて短期間での実施で課題が山積です。これから本格的に移行するには、新たな仕組みにスムーズに移行させる必要があり、その為の秘訣には何かあるのかを考えてみたいと思います。

テレワークやペーパーレス化を進める為には

テレワークやペーパーレス化を進める為には、業務の見直し(業務の標準化・削減)を行い、電子化により便利で使いやすいシステムの導入が不可欠ですが、それだけではなかなか浸透しないし抵抗も激しいことが予想されます。

確実に推進させるには、それを使う社員の理解や意識改革を求めればよいと言うわけではありません。下記のような環境を整え体験してもらうことで、不安や心配事を払拭させることが肝心です。

1 安心感

- 懸念事項や心配事がある場合は、それをなくすために可視化して対策する
- 評価制度を今までのように上司ひとりで行う方法を改める



2 安全性の確保

- 勤務管理(時間管理)をテレワークしやすくいつでもどこでも仕事ができる制度に改める
- テレワークできる業務とできない業務の不公平感をなくし働き方を選択できる



3 意識改革でなく行動変容

- 行動と経験がないと意識は変わらない
- 便利と言う意識の植え付けでなく経験や体験を促す

